令和６年度　自己評価書・学校関係評価書

令和７年３月１４日

真庭市立落合こども園

１．落合こども園の教育保育目標

〈保育理念〉

生きる力に向けて園児の望ましい育ちを支える

〈教育目標〉

心豊かで、人と楽しくかかわりながら、主体的にたくましく生活する子どもの育成

〈目指すこども像〉

〇元気な子ども

〇考える子ども

〇仲良くする子ども

〇感性豊かな子ども

〈目指すこども園像〉

〇安心安定した情緒と落ち着いた教育保育環境の中で、心豊かに健やかに育つこども園

〇保護者や地域に信頼され、愛されるこども園

〇安心安全な親と子どもの育ちの場としてのこども園

２．本年度の重点目標（課題）

（１）心豊かで、人とかかわりながら、主体的にたくましく生活する子どもの育成

１、心豊かな子どもの育成

・子どもの気持ちや考えていることを汲み取り、ありのままの姿を受け止めることで、安心して自分の気持ちを表すことができる子どもを育成する。

・子どもが安心して過ごし、ありのままの自分が出せるよう信頼関係を培う。

・絵本の読み聞かせを通して想像力や豊かな感性を培う。

・自然とのかかわりの中で五感を通して感じ、発見した喜びや好奇心を培う。

・子どもの育ちに合わせた食育を通して楽しく食べ、友達とおいしさを共感し合う心を育む。

・子どもの興味関心に沿った環境構成を行い、夢中になって遊び込める子どもを育成する。

２、人とかかわることを楽しむ子どもの育成

・保育教諭や友達との信頼関係のもと、模倣遊びやごっこ遊びを楽しみ、友達同士のかかわりを広げる。

・友達と一緒にのびのびと活動し、身近な人や環境に意欲的にかかわり、互いに認め合いながら遊びを楽しみ協力し合ってやり遂げようとする子どもを育てる。

・安定した信頼関係のもと、友達の心が沈んだ時でも共感し合える子どもの育成を行う。

・異年齢同士の交流を通して、互いに親しみを感じ年齢を超えて学び合い、相手への憧れや思いやりの心を育てる。

3、主体的にたくましく生活する子どもの育成

・遊びの中で、試行錯誤を重ね、できた時の達成感が感じられるよう、根気よく見守り共感することで主体的に遊ぶ子どもを育てる。

・一人一人の子どもの発達段階や家庭環境などを考慮し職員間で共通理解を行い、安心して心身共に健康に過ごせるようにする。

・根気よく年齢に応じた援助を行うことで、基本的な生活習慣が身につくようにする。

・しっかり運動し、給食を楽しみにし、喜んで食べる子どもを育てる。

・基本的生活習慣や集団生活における態度が身につき、見通しをもって生活しようとする子どもを育てる。

（2）小学校への接続と学びの連続性について

・互いにねらいを持った交流活動が行えるよう、事前事後の協議やカリキュラムを共有し合い、5歳児が入学を楽しみにできるよう、なめらかな接続を行う。

・５歳児のみにとどまらず、他年齢にも情報発信を行い子どもの育ちを共有し合う。

・「幼児期までに育ってほしい１０の姿」を意識しながら、各年齢なりの育ちを積み重ねていく。

（3）信頼されるこども園づくり

1、開かれたこども園づくり

・保護者が相談しやすい雰囲気づくりを行い、保護者の思いに寄り添う。

・希望があれば、いつでも相談会や懇談を行う。

・園開放を行い、地域の子育て支援を行う。

・地域の人との交流を行い、園に親しみをもってもらう。

2、人権意識の向上

・園児や保護者に対して、また、職員同士においても、常に人権を意識した言動や態度を意識する。

・子どもや保護者の国籍や文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てる。

3、安心安全なこども園づくり

・危機管理意識を持ち、安全指導の充実を行う。

（火災避難訓練・交通安全指導・災害訓練・引き渡し訓練・不審者訓練）

4、今年度の重点的な取り組み

支援が必要な園児に対して関係機関との連携をもちながら園児理解に努め、適切な環境作りや保育教諭の援助の在り方や言葉がけについて探っていく。また、すべての園児に対して、主体性を尊重した環境作りや園児の自己肯定感を高めるための援助や言葉のかけ方について探っていき保育教諭同士の話し合いの機会を多く持つことで、共通理解を持ち同僚性を高めていけるようにする。支援の必要な園児も他の園児も、すべての園児が互いに育ち合えるインクルーシブ保育を目指していく。

3．園評価の個別評価

評価指標	考　察	園総合評価	学校評議員評価
教育保育課程・指導計画	全体的な計画に基づき、年齢に応じた指導計画を立てて保育した。毎月振り返りを行い翌月の保育に生かした。	3	3
行事	運動会、生活発表会は園児の興味や発達に合わせ園児と一緒に作り上げた。節分、お別れ会等は園児の思いを大切にし、度々会議を行い共通理解をして取り組んだ。	3	4
組織・運営	朝礼や報告会を毎日行いコドモンに入力することで職員同士の情報共有が密に行えるようにした。報告会ではクラスの様子を話す事で園児・クラスの姿を理解する事ができた。	3	3
学級経営	一人一人のありのままの姿を受容し丁寧な教育保育に努めた。毎月反省会をし保育の振り返りを行うことで改善に努めた。	3	4
特別支援教育	外部関係機関と連携しながら進めた。就学に向け小学校連携もいつも以上に行った。支援が必要な園児の保育を職員連携をもって行った。	3	3
安全管理・保健指導	不審者避難訓練・災害訓練は園児参加で行い、地域防災訓練に５歳児が参加するなど防災意識を高めた。毎月の安全点検を行い、年齢に応じた衛生面の配慮を行っている。	3	3
研修（資質向上）	園外研修に参加したが職員全員が行くことができなかった。研修の時間の確保が課題である。園内研修はグループ研修をし、全員が参加し発言できるようにした。	3	3
情報提供・保護者・地域との連携	保護者へはコドモンで遊びや行事の様子を毎日写真配信した。お便り等はわかりやすい文章表現に努めたが今後も改善していきたい。	3	3
小学校との接続・連携	計画的に交流を行った。前もって職員同士顔を合わせて計画する事ができ有意義な交流となった。園児も入学への期待感・安心感も高まっている。	3	3
子育て支援	園開放を実施しているが、参加者がなく残念である。保護者へは日頃の保育の中で保護者の立場や気持ち理解に努め支援をしている。	3	3
食育の推進（給食）	畑作り・収穫・調理体験をして野菜への関心を高めた。栄養士による食育指導も計画的に行った。偏食の改善も見られ園児は給食を楽しみにしている。	4	4
食事の提供（調理）	安心安全な調理の徹底。食物アレルギー代替え食や離乳食、支援の必要な園児への盛り付けの工夫等の細やかな対応を行った。	4	4

4．本年度の重点課題及び総合的な評価結果の考察等（学校関係者評価委員総合所見含）

「1、心豊かな子どもの育成」においては、園児のありのままの姿を受け止めることと園児の興味関心に沿った環境構成を行うことを大切にし保育を進めた。また、4、今年度の重点的な取り組みでもある、すべての園児に対して一人一人を尊重し園児の自己肯定感を高めるための援助についても園内研修をしてきた。今年度はすべての保育教諭が自分の保育についての思いを自分の言葉で話すことができるようグループ研修に取り組んだ。その中で保育教諭自身の保育への素直な振り返りができ、同僚性を培う基盤づくりができた。このことは、園児の心を読み取り心豊かな子どもの育成に繋がっていくことと考える。今年度はグループ研修の回数が少なかった事が反省点ではあるが、今後も継続していき、園児の心豊かな心の育成をしていきたい。「2、人とかかわることを楽しむ子どもの育成」については、前年度から継続してきた異年齢児交流もできた。遊びに誘ったり世話をしたり相手の気持ちを汲んで我慢したり等、同年齢だけでは見られない姿も見られた。また、友達同士の関わりの中ではトラブルも多くあるが、学びの一場面と捉え丁寧に保育教諭が関わり、園児が考え気持ちを伝え合うことができるよう援助をしている。次第に互いの思いの違いに気付き折り合いを付けることもできるようになっている。「3、主体的にたくましく生活する子どもの育成」については、生活習慣の自立を目指し個々に応じた援助を行い、年齢に応じた成長が見られている。また、畑作りや食育活動、クッキングも行い、食に対する関心を高めており給食も残さずよく食べている。「小学校への接続と学びの連続性について」は初めて5年生・1年生・5歳児担任・園長で年間計画を立てることができた。計画的に交流することができ、園児は入学を楽しみにし、職員同士の交流も図れた。今後も継続していきたい。
保護者アンケートでは、前年度‘職員と相談できる’の項目に「そう思わない」が2％あったが今年度は0％だった。‘園に総合的に満足している’の項目では「そう思わない」「わからない」が0％であり全員の保護者が好評価をして下さっている事に感謝している。意見の中に、職員の朝の受け入れや対応についての意見もあった為、職員で話し合い自らの対応を振り返っている。今後も、職員全員の共通理解を行い、園児一人一人を大切にしありのままを受け止める保育を実践していきたい。

6．評価結果・考察等（学校関係者評価委員総合評価）を受けての具体的改善方策等

・保護者アンケートでは、数値的には好評価を頂いているが、意見の中に朝の受け入れや送迎時の保育教諭への対応の指摘があった。園児の保育や子ども支援はもちろんであるが、保護者支援も保育内容の一つと考える。日頃の自分自身の行動を振り返り、改善できる事は何か職員同士で考察を行った。より一層、職員同士が声を掛け合いながら園児の受け入れ、保護者へのきめ細かい対応を行うよう共通認識をもった。
・コドモンを利用し保育の内容や様子を理解してもらえるようできるだけ多く発信を行った事は保護者にも好評価であった。今後も継続し、保護者に理解して頂けるコドモン配信に心がけたい。また、わかりやすい文章発信ができるよう、保護者や職員同士の意見を取り入れながら、文章表現や形式等の改善をしていきたいと思う。
・園評議員は、行事に参観して頂いた事で、クラス運営や行事の在り方や園児の成長の姿を見て評価して頂いた。給食において、離乳食・アレルギー食・刻み食・支援の必要な園児の盛り付けの工夫などを評価していただいた。今後も、子ども一人一人を尊重した保育の実践と園児の様子に合わせた安心安全な給食提供を、給食・保育との連携をもちながら進めていきたい。
・職員の自己評価は、前年度より評価が上がっている。特に、職員連携についてより気を付ける意識が高くなっている。インクルーシブ園内研修をグループ研修にし、全員が参加し自分の言葉で保育を語る場を設けた事が要因になっているように思う。普段仲が良いことはもちろんであるが、保育内容を向上させる職員連携ができるよう今後も取り組んでいきたい。
•多くの園児が長時間保育を受ける現状であり、保育準備の時間がない、職員同士で保育について話し合う時間がないことが課題である。行事や事務の軽減ができるよう見直しを行い、業務分担を明確にすることで少しでも時間を作っていきたい。また、情報共有を行うことで職員同士の共通理解を図り、職員同士が話をする事で互いの思いを知り気持ち良く協力し合えるような環境を作っていきたい。そのことが保育の向上に繋がっていくと考える。

学校評議員・園評価基準

評　価	基　　準	
4	８０％以上の達成度	十分達成されている
3	６０％以上８０％未満の達成度	概ね達成されている
2	４０％以上６０％未満の達成度	取り組まれているが、成果が十分でない
1	４０％未満の達成度	取り組みが不十分である